

## 新漁業調査船「かいせい」竣工

漁業調査船「くろしお」の船体および搭載計器の老朽化に伴い、新漁業調査船「かいせい」を建造しました。これから本県の漁業生産の拡大を目的として調査に取り組みますので、今後の「かいせい」の活躍にご期待ください。



- ◎新漁業調査船「かいせい」
  - ◇新漁業調査船「かいせい」竣工
  - ◇進水式・竣工式
  - ◇主要設備の紹介
  - ◇調査・観測機器の紹介

<かいせい 船長 南野 正博>

- ◎研究紹介
  - ◇キジハタが獲れ始めました！！
  - ◇アサリの天然採苗について

<外海研究部栽培加工グループ 南部智秀>  
<内海研究部増殖病理グループ 多賀 茂>

- ◎トピックス
  - ◇山口県水産研究センター研究発表会を開催

<企画情報室 渡邊 直>

## 進水式・竣工式



進水式（平成28年4月12日）



竣工式（平成28年8月2日）

## 主要設備の紹介

「かいせい」は、総トン数125トン（全長36.3m 幅6.6m）、主機関中速ディーゼル1,030KWの鋼船で、NO<sub>x</sub>（窒素酸化物）低減対策を施し、国際海事機関規制値に対応しています。

全長にわたり船底にバラストキールを備え良好な復原性を有し、船首水面下のサイドスラスタと最大70度まで舵切りができるシリングラダーの併用によって平行移動が可能となり、狭い範囲での離接岸時に大きな効果を発揮します。

定員は乗組員13名と調査員5名、個室と2人部屋を設けており、女性専用の乗組員部屋とシャワー、トイレ、洗濯機等の衛生設備を備えています。

船尾甲板は油圧トロールウインチ（2トン巻×2基）を装備することにより、オッターボード（網口開口板）を使用した中層トロール網の曳網が可能になりました。

今後、これら最新の設備を使用して、山口県の漁業の発展に資する調査を行ってまいります。



操舵室



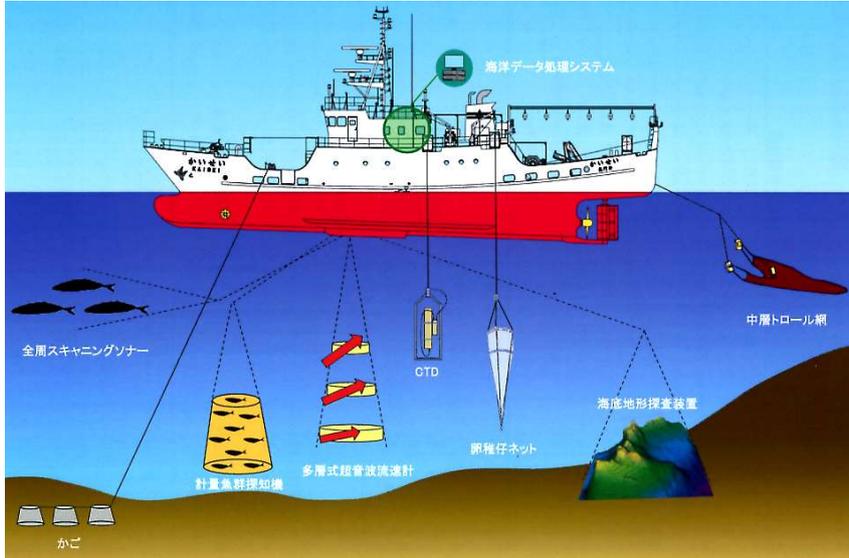
サイドスラスタ



油圧トロールウインチ

# 調査・観測機器の紹介

「かいせい」は、以下の最新鋭の調査・観測機器を搭載しています。これらの機器を用いて水産資源の調査、未利用資源・漁場の開発、海洋観測を実施し、漁業者への迅速な情報提供を行います。



- ①海洋データ処理システム(船内の観測機器・航海計器の情報を一括管理するシステム)
- ②海底地形探査装置(海底の形状を計測する装置)
- ③計量魚群探知機(魚群を定量的に計測する装置)
- ④全周スキャンソナー(船の周りの魚群を広範囲に探知する装置)
- ⑤漁網監視装置(曳網調査のとき、網の状態を把握する装置)
- ⑥ADCP(多層式超音波流速計;流れを計測する装置)
- ⑦CTD(塩分・水温・深度測定装置;深さ方向に、水温と塩分を計測する装置)
- ⑧中層トロール網

## <研究紹介>

# キジハタが獲れ始めました！！

山口県では平成24年から(公社)山口県栽培漁業公社でキジハタ種苗生産を事業化し、今では国内最多の種苗が県内全域に放流されています。また、放流した種苗が少しでも多く生き残り、効率よく成長するよう漁場整備や資源管理など資源の増大に向けた様々な取り組みを進めています。

近年、その成果として「以前に比べてキジハタが増えた」という声が各地で聞かれ始め、平成28年の秋には日本海側の一部の市場で100-200尾/日の水揚げが何度か確認されました。漁獲の主体は全長約35cm(推定年齢3-4歳)で、漁場整備海域の周辺で漁獲されました。種苗放流に加え、「全長30cm未満採捕禁止」が漁業関係者の方々の努力により周知徹底され、この事例につながったと考えられます。

このような事例が今後も県内全域でたくさん見られるよう取り組みを進めますので、引き続きご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



市場に出荷されたキジハタ

## アサリの天然採苗について

各地のアサリ漁場において天然アサリ稚貝を簡単に採取することが可能です。当所の事例では、種もみ袋の内部にボラ土（小粒）を収容し、秋（春先でも良いです）に干潟へ置くと、翌年秋には袋内部に殻長2cm前後のアサリ稚貝を多数見つけることができました（数量は干潟毎に違います）。袋の内容物は、ボラ土の他、砂利、砕カキ殻や砕瓦など粒状のものであれば差し支えありません。種もみ袋もボラ土等もホームセンターで購入できます。かつてのアサリ漁場で種場と呼ばれたような場所に設置するとより効果が期待できます。



天然採苗されたアサリ稚貝



袋内部で見つかったアサリ稚貝  
(584個 0.7kg)

### <トピックス>

## 山口県水産研究センター研究発表会を開催

平成29年2月18日（土）山口県漁業協同組合湊支店大会議室において、平成28年度水産研究センター研究発表会を開催しました。

本年度は、外海研究部の研究課題4題と話題提供1題について発表しました。内容の一部を紹介しますと、黄金カタクチイワシの出現、ケンサキイカの漁場形成、キジハタの大量漁獲、ドローンによる空撮の様様、アカモクの加工方法です。後日、問合せが寄せられ、発表テーマに対する漁業者の関心の高さがうかがえました。今後も漁業者に密着した試験研究を進めてまいります。

### <発表タイトル>

- 1 山口県日本海域で漁獲されるいわし類のトピックス
- 2 ケンサキイカの資源動向と漁場
- 3 キジハタ関連施策の現状
- 4 ドローンを活用した藻場調査について
- 5 アカモクの生態と利用・加工について（話題提供）



編集・発行 山口県水産研究センター企画情報室

外海研究部 〒759-4106 長門市仙崎2861-3

電話0837-26-0711 email:a16402@pref.yamaguchi.lg.jp

内海研究部 〒754-0839 山口市秋穂二島437-77

電話083-984-2116 email:a16403@pref.yamaguchi.lg.jp